



JST 理事長 記者説明会

平成28年10月19日





科学技術振興機構

JST20周年記念事業と サイエンスアゴラ2016



科学技術振興機構

サイエンスアゴラウィーク(11月3日～6日) にご注目下さい!

	11/3(木・祝)	11月4日(金)	11月5日(土)	11月6日(日)
10:00	キーノート 「がん予防が切り拓く新しい社会」 開幕 「つくろう、科学とともにある社会」	出展者交流企画他	 記念フォーラム 未来共創イノベーションを目指して「とてもよい世界の作り方」 (記念式典)	キーノート 「人獣共通感染症へのチャレンジ」 キーノート 「発達障害に対する適切療育・支援のための研究開発」 キーノート 「INNOVATION BY DESIGN」 キーノート 「芸術、科学、技術、クリエイティビティ」
11:00				
12:00				
13:00				
14:00				
15:00	キーノート 「震災から5年」 閉幕 「サイエンスアゴラNEXT」			
16:00				
17:00				
18:00				

JST20周年記念事業 について



科学技術振興機構

JST20周年記念事業について①

1. 記念フォーラム・記念式典

日時：平成28年11月4日（金） 13:00～18:00

会場：東京国際フォーラム



記念フォーラムは、サイエンスアゴラ2016
のサテライトイベントとして開催します

● 記念フォーラム（一般公開） 13:00～16:30（B7ホール）

テーマ：未来共創イノベーションを目指して「とてもよい世界の作り方」

国内外の気鋭のリーダーによる基調講演とパネルディスカッションを通じて、
これからの20年の未来社会における社会と科学技術のあるべき関係を3
つの視点から考えます。

基調講演：梶田 隆章 東京大学特別栄誉教授・宇宙線研究所長
（2015年ノーベル物理学賞受賞）
浅川 智恵子I BMフェロー

● 記念式典（招待者のみ） 17:00～18:00（B5ホール）

記念講演：天野 浩 名古屋大学教授（2014年ノーベル物理学賞受賞）

JST20周年記念事業について②

2. 記念シンポジウム等(全5回実施済み)

【目的】

これまでのJSTの実績を総括し、次の20年への課題を探る

【テーマ】

1. 新時代に求められる人材の育成
2. 研究開発のあり方とそれに関わる研究機関等の役割(イノベーション)
3. 若い世代への提言
4. 次の時代を担うことが期待される新産業の創出(ベンチャー)
5. 科学技術は復興にいかに関わるべきか

JST20周年記念事業について③

(シンポジウム等)

	日にち	場所	テーマ
第1回	平成27年7月24日(金)	東京	企業と大学の壁を超える新たな挑戦 ～社会、産業界を牽引する人材育成を目指して～ (テーマ1:人材の育成)
第2回	平成27年8月27日(木)	東京	イノベーションを語る ～企業・大学・公的研究機関の役割とは～ (テーマ2:イノベーション)
第3回	平成28年1月9日(土)	名古屋	若い世代へ ノーベル賞科学者からの提言 ～科学技術で次の時代を切り開け～ (テーマ3:若い世代への提言)
第4回	平成28年3月1日(火)	大阪	明日への飛躍を目指して ～ベンチャー企業が日本を救う～ (テーマ4:ベンチャー)
第5回	平成28年5月29日(日)	福島	若者がつくる復興の未来図 ～科学技術は復興にいかに関わるべきか～ (テーマ5:復興)

これらのコア行事に加え、JST各事業間の連携により、
JST20周年記念行事として企画・実施中

JST20周年記念事業について④

第1回の様子



文部科学省文部科学審議官(当時)
土屋定之氏(来賓挨拶)



大日本印刷株式会社 代表取締役副社長
高波光一氏(基調講演)



パネルディスカッションの様子

動画
公開中

第3回の様子



右 名城大学終身教授/名古屋大学特別教授・名誉教授
赤崎勇氏
左 京都大学iPS細胞研究所所長・教授
山中伸弥氏

第2回の様子



内閣府政策統括官
科学技術・イノベーション担当(当時)
森本浩一氏(来賓挨拶)



東京理科大学 学長
藤嶋 昭氏(基調講演)

JST20周年記念事業について⑤

第4回の様子



文部科学省科学技術・学術政策局長
伊藤洋一氏(来賓挨拶)



大阪大学 総長
西尾 章治郎氏(基調講演)

第5回の様子



福島県副知事
畠 利行氏(来賓挨拶)



福島大学理事・副学長
小沢 喜仁氏(特別対談)



名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長
益川 敏英氏(特別対談)

動画
公開中

JST20周年記念事業について⑥

第5回の様子(つづき)



筑波大学システム情報系教授・サイバニクス研究センター長
CYBERDYNE株式会社社長/CEO
山海 嘉之氏(基調講演)



岩手県立盛岡第三高等学校
玉木 穂香さん(高校生スピーチ)



福島県立ふたば未来学園高等学校
日下 雄太さん(高校生スピーチ)



パネルディスカッションの様子



福島県立安積高校 弦楽合奏部4人による弦楽4重奏

(参考1) JST設立の経緯

日本科学技術情報センター(JICST)

設立: 1957年8月

目的: わが国における科学技術情報に関する
中枢的機関として内外の科学技術情報
を迅速かつ適確に提供すること

(*) 新技術開発事業団(JRDC)

設立: 1961年7月(1958年10月に誕生した

「理化学研究所開発部」から分離独立)

目的: 海外技術への依存から脱却し、わが国の
大学や国立研究所等の優れた研究成果を
発掘し、その企業化を図ること

* 1989年 新技術事業団に名称変更

科学技術振興事業団(JST)

設立(統合): 1996年10月

目的: 科学技術振興のための基盤整備を総合的かつ効率的に行うとともに、「科学技術基本法」に
位置づけられた施策を強力に推進すること

独立行政法人科学技術振興機構(JST)

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

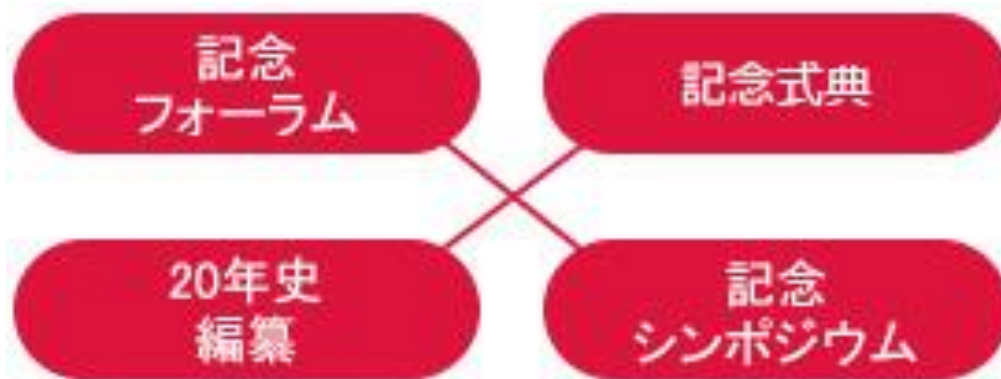
2015年4月、研究開発の最大限の成果を確保するため、「国立研究開発法人」に組織変更。
(目標設定や評価、マネジメントの最適化が可能になった。)

（参考2） JST20周年記念事業の概要

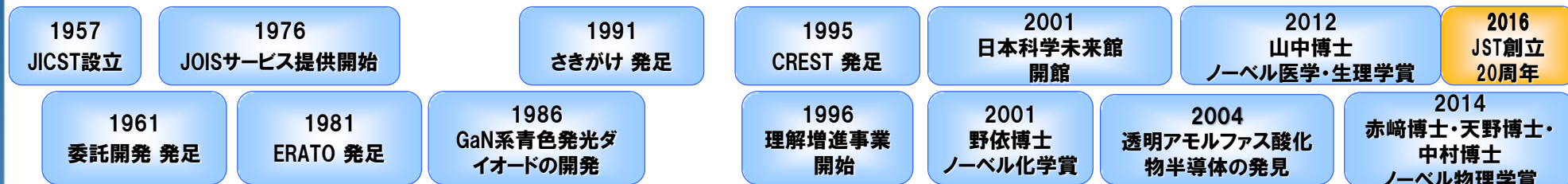
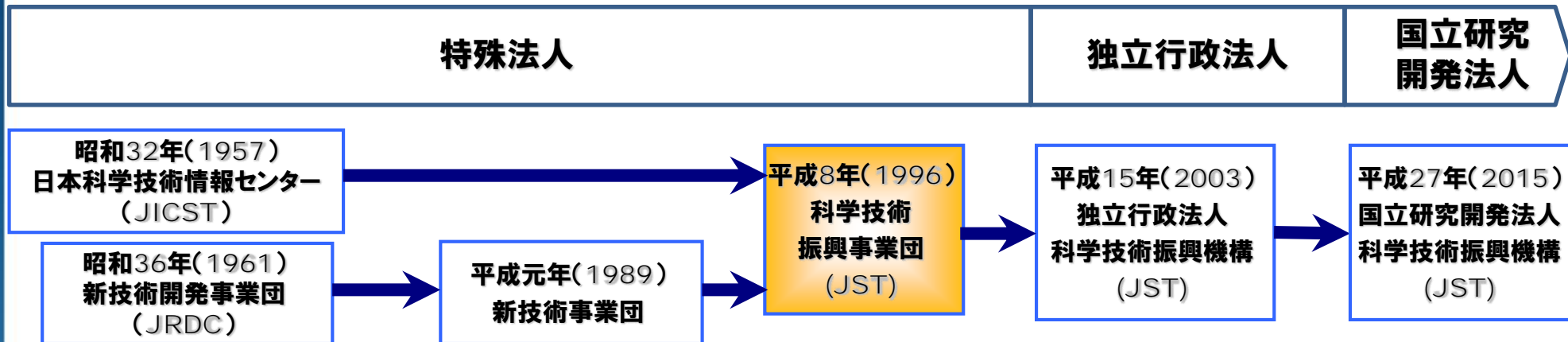
統合から20年（平成28年10月）の機会に、前身となる機関（日本科学技術情報センター、新技術開発事業団）を含めた過去の実績から、科学技術政策においてJSTが果たしてきた役割を振り返り、今後のJSTのあるべき姿を展望する。

【コンセプト】

JSTは科学技術とともに明るい未来を創ります



(参考3) JSTの沿革



松川地熱発電所(委託開発の成果)にご来臨の天皇皇后両陛下



皇太子殿下 ERATO新海プロジェクト訪問



科学技術振興事業団発足



日本科学未来館開館



山中伸弥博士、ノーベル医学・生理学賞を受賞



サイエンスアゴラ 2016

科学コミュニケーションセンター



科学技術振興機構

サイエンスアゴラは、あらゆる人に開かれた “科学と社会をつなぐ広場” です



分野、セクター、年代、国籍の境界を超えて多様なステークホルダーが集い、さまざまな視点からこれからの社会と科学のあり方を皆で考えるフォーラムです。

サイエンスアゴラ2016のビジョンとテーマ

ビジョン：**つくろう、科学とともにある社会**

2015年から掲げているこのビジョンには、「**科学は社会のものである**」という認識にもとづき、科学者とその関係者は社会の課題に応える科学技術を誠心誠意発展させるよう努め、科学の世界を変えるだけでなく、社会をさまざまな人たちと共につくる存在でありたいという願いが込められています。

テーマ：

■ 2020年に向けた共有課題

科学によって
変わる社会

社会によって
変わる科学

リスクとの
調和

■ 2016年の
テーマ

医・食・
暮らし

教育・
文化芸術・
スポーツ

震災復興
5年

あなたが
設定

【サイエンスアゴラ2016の重点テーマ】

2011年の東日本大震災から5年が経過—

私たちはこの震災で何を克服したのか？ 何を解決できず、残された課題は何なのか？

この節目の年のサイエンスアゴラを開催するにあたり、改めて現実と真摯に向き合い、対話する場にしたいと考えています。

サイエンスアゴラ2016 開催概要

会 期：2016年11月3日（木・祝）～6日（日）

※各日10：00～17：00（最終日は一部を除き16:00まで）

会 場：東京・お台場地域（日本科学未来館ほか）

【今年の特徴】

1. 震災復興5年を多様な観点で振り返ります

- 応募企画213件のうち、16件が震災復興関連企画
 - 開幕セッションでのパネル討論「復興後の未来に向かって（仮）」
 - キーノートセッション「震災から5年～いのちを守るコミュニティ～」（主催：大阪市大都市防災研・東北大学災害科学国際研）
 - メディアセッション「海外から見た日本の“震災復興5年”と被災地の若者が描く未来社会」

2. より開かれたサイエンスアゴラを目指します

- 通常のブース展示やセッション企画に加えて、キーノートセッションも一般公募
 - 応募企画12件を精査して6件をキーノートセッションに
- 若者を登壇者に迎え、年代の多様性を拡大
 - キーノートセッション「がん予防が切り拓く新しい社会」
 - キーノートセッション「震災から5年～いのちを守るコミュニティ～」（主催：大阪市大都市防災研・東北大学災害科学国際研）
 - 開幕パネル討論他

サイエンスアゴラ2016 ハイライト①

◆開幕セッション つくろう、科学とともにある社会

11月3日（木・祝） 13:30～17:00（※17:00～17:30でアフタートークを開催）

基調講演



南場 智子氏

（株式会社ディー・エヌ・エー創業者、現取締役会長）より、「科学技術を基盤にした**新しい社会的価値の想像に寄与する人材育成（人をつくる・育てる）**」視点からのメッセージを発信。



ラッシュ・D・ホルト氏

（AAAS/米国科学振興協会：Science誌発行）のCEO（元米国下院議員）より、「**場をつくる」「場を育てる**」という観点から**中長期的な展望**を提供。

主催：JST 科学コミュニケーションセンター

パネル討論

「復興後の未来に向かって（仮）」

福島と熊本で震災に直面した経験を持つ高校生が、若手科学者、メディア、行政関係者とともに「震災復興5年」を振り返る。その経験から学んだことや残された課題、科学技術をめぐるコミュニティのあり方について討論。

モデレータ：

橋本 和仁氏（内閣府 総合科学技術・イノベーション会議）

登壇者：

大浦 葉子氏（福島県立福島高等学校 3年生）

遠藤 瞭氏（福島県立ふたば未来学園高等学校 1年生）

中武 聖氏（熊本県立宇土高等学校 2年生）

アハメッド・アシル氏（九州大学 大学院 システム情報科学研究院 准教授）

藤田 壮氏（国立環境研究所 社会環境システム研究センター センター長）

南 砂氏（読売新聞東京本社 取締役 調査研究本部長）

サイエンスアゴラ2016 ハイライト②

◆ キーノートセッション

がん予防が切り拓く新しい社会

主催：がん予防の未来を考える会
日時：11月3日（木・祝）10:30～12:00

登壇者：

石川 秀樹氏：日本がん予防学会次期理事長、
京都府立医科大学分子標的癌予防医学
特任教授

横倉 義武氏：日本医師会 会長

川上 善之氏：日本製薬工業協会 産学官連携部会長

高橋 宏和氏：厚生労働省健康局 がん・疾病対策課
がん検診対策専門官

高橋 真理子氏：朝日新聞社 科学コーディネーター
東京大学 医学部医学科 学生

栃木県 樹徳高校 学生

人獣共通感染症へのチャレンジ

主催：日本学術会議 科学力増進分科会
日時：11月5日（土）10:30～12:00



登壇者：

澁澤 栄氏：日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院
農学研究院 教授

甲斐 知恵子氏：東京大学医科学研究所感染症国際研究
センター 教授

小田 光康氏：明治大学情報コミュニケーション学部専任准教授、
明治大学感染症情報分析センター長、
ジャーナリスト

水谷 哲也氏：東京農工大学大学院農学研究院教授、農学部
附属国際家畜感染症防疫研究教育センター長

須藤 靖氏：日本学術会議第三部会員、東京大学大学院
理学系研究科物理学専攻教授

うちの子、少し違うかも・・・～発達障害に対する適切療育・支援のための研究開発～

主催：JST 社会技術研究開発センター 日時：11月5日（土）12:45～14:45



登壇者：

神尾 陽子氏：国立精神・神経医療研究センター 部長

船曳 康子氏：京都大学大学院人間・環境学研究科 総合人間学部准教授

熊 仁美氏：特定非営利活動法人ADDS 共同代表

山野 則子氏：大阪府立大学地域保健学域／人間社会システム科学研究科 教授、スクールソーシャルワーク評価支援所 所長

サイエンスアゴラ2016 ハイライト③

◆ キーノートセッション

INNOVATION BY DESIGN —科学とデザイン—



主催：京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab
日時：11月5日（土）13:00～14:30

登壇者：

小野 芳朗氏：京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab
ラボラトリー長、副学長

ジュリア・カセム氏：KYOTO Design Lab 特任教授

マルセル・ヘルマー氏：英国王立芸術学院 [RCA]

三宅 拓也氏：京都工芸繊維大学助教

芸術、科学、技術、クリエイティビティ

主催：駐日欧州連合代表部
日時：11月5日（土）15:30～17:00



登壇者：

フィリップ・コドニエ氏：フランス国立科学研究センター
北アジア地域事務所 所長

ゲルフリート・ストッカー氏：アルスエレクトロニカセンター
ディレクター

渋谷 慶一郎氏：作曲家、音楽家

池上 高志氏：東京大学 大学院総合文化研究科
広域システム科学系 教授

ジェラルド・アサヤ氏：フランス国立音響音楽研究所 研究員

ビアトリス・デ・ゲルダール氏：マーストリヒト大学 心理・神経
科学部 教授

震災から5年～いのちを守るコミュニティ～

主催：大阪市立大学都市防災教育研究センター（CERD）、東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）
日時：11月6日（日）13:00～14:30



登壇者：

森 一彦氏：大阪市立大学都市防災教育研究センター 所長、室崎 益輝氏：兵庫県立大学防災教育センター センター長、

中鉢 奈津子氏：東北大学災害科学国際研究所 特任助教、吉田 大介氏：大阪市立大学都市防災教育研究センター 研究員

藤見 俊夫氏：熊本大学大学院 先端科学研究部 准教授、三田村 宗樹氏：大阪市立大学都市防災教育研究センター 副所長
大阪市立瓜破西中学校（ビデオメッセージ）、東田 豊彦氏（積水ハウス）、宮城県多賀城高等学校（災害科学科）

サイエンスアゴラ2016 ハイライト④

◆ 震災復興関連企画一覧

企画タイトル	企画提供者名
開幕セッション つくろう、科学とともにある社会	科学技術振興機構
福島復興へ向けて原子力機構が取り組んできたこと	日本原子力研究開発機構
震災復興 5年に学ぶこれからの科学の役割	公益社団法人日本技術士会 科学技術振興支援委員会
福島復興を放射線科学で支援する～放医研の取り組み	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
語り合おう 廃炉の今	科学技術振興機構
若手インフラ技術者とする、東日本大震災復興の軌跡とこれから	低炭素社会マネジメント技術研究会
ジャムステックが行う震災関連研究	J A M S T E C
知ろう 廃炉の今	科学技術振興機構
震災5年目：若者が描く復興後の福島の未来と科学・技術	ふくしまサイエンスぷらっとフォームspff
10万年後の将来をどう考えるのか-地層処分問題を通して	日本原子力学会で処分問題を考える研究専門委員会有志
未来へのメッセージ～震災遺構とともに生きる社会	きせきのせき坊メッセンジャー
エネルギー政策をゲームで体験「エネ大臣になろう！」	電源開発株式会社 (J-POWER)
南相馬市の科学教育による震災復興への取り組み	南相馬サイエンスラボ
放射線科学の責任 福島問題の現在・過去・未来	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
震災から5年～いのちを守るコミュニティ～	大阪市立大学 都市防災教育研究センター (CERD) & 東北大学 災害科学国際研究所
Lesson # 3. 11 放射能汚染とリスク感覚	科学技術振興機構 日本科学未来館

メディアセッション@サイエンスアゴラ開催！ 全米科学振興協会との共催（打診中）

- ◆ 日時：2016年11月3日（木・祝）11:30～12:30
- ◆ 会場：日本科学未来館 7階 会議室1【プレス限定】

- ◆ 登壇者：

濱口 道成（JST 理事長）

ラッシュ・D・ホルト氏（AAAS（米国科学振興協会）CEO／元米国下院議員）

大浦 葉子氏（福島県立福島高等学校 3年生）

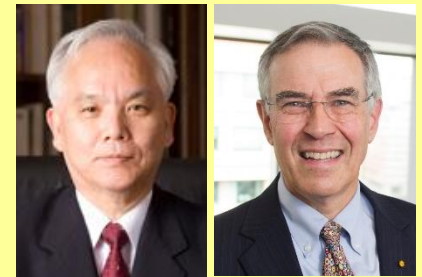
遠藤 瞭氏（福島県立ふたば未来学園高等学校 1年生）

中武 聖氏（熊本県立宇土高等学校 2年生）

JST・AAAS・被災地の高校生の3者で対談形式の記者会見を行います

対談後は、登壇者と記者の皆さまとの質疑応答の時間を設けます（事前に質問を受け付ける予定です）

※米国「Science」誌、欧州「Public Understanding of Science」誌のジャーナリストも来日予定



- ◆ テーマ：

「海外から見た日本の“震災復興5年”と被災地の若者が描く未来社会（仮）」

ラッシュ・D・ホルト氏からは、日本の震災復興5年をアメリカはどうみてきたのかについて、福島・熊本の高校生からは、若者の目から見た被災地の復興と未来の社会にかける想いについて、それぞれ語っていただきます。

※同時通訳あり

- ◆ 登壇者紹介： ラッシュ・D・ホルト氏（米国科学振興協会（AAAS）CEO）

2015年より米国科学振興協会（AAAS）第18代CEO及び「Science」系雑誌の発行責任者。ニュージャージー州選出の下院議員を16年（1999年～2015年）務めた。1987年～1998年エネルギー省（Department of Energy：DOE）傘下のプリンストンプラズマ物理学研究所（Princeton Plasma Physics Laboratory：PPPL）副所長。ニューヨーク大学博士課程修了（物理）。教員、科学者、管理者、政策立案者の役職を歴任してきた米国科学技術界の重鎮。

さまざまな境界を越えて多様な人が集う「サイエンスアゴラ」でしか実現し得ない
貴重なコラボレーションです。この機会をお見逃しなく！



JST イベント情報



科学技術振興機構

JSTイベント情報(10/19～)

セミナー「安全な暮らしをつくる個人情報の保護:高齢者の見守り」

開催日:2016年10月19日(水) 18:30～20:30
会場:東京都新宿区 / TKP市ヶ谷カンファレンスセンター
お問合せ:社会技術研究開発(センター)
Tel: 03-5214-0133 Fax: 03-5214-0140 Mail: pp-info.jst.go.jp

東京電機大学 新技術説明会

開催日:2016年10月20日(木) 11:00～15:25
会場:東京都千代田区 / JST東京別館ホール
お問合せ:産学連携プロモーショングループ
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scett@jst.go.jp

東京工業大学 新技術説明会

開催日:2016年10月25日(火) 10:00～15:25
会場:東京都千代田区 / JST東京別館ホール
お問合せ:産学連携プロモーショングループ
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scett@jst.go.jp

富山大学 新技術説明会

開催日:2016年10月27日(木) 13:25～15:25
会場:東京都千代田区 / JST東京別館ホール
お問合せ:産学連携プロモーショングループ
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scett@jst.go.jp

ライフサイエンス 新技術説明会

開催日:2016年11月01日(火) 10:30～12:55
会場:東京都千代田区 / JST東京別館ホール
お問合せ:産学連携プロモーショングループ
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scett@jst.go.jp

材料・装置 新技術説明会

開催日:2016年11月01日(火) 14:00～15:55
会場:東京都千代田区 / JST東京別館ホール
お問合せ:産学連携プロモーショングループ
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scett@jst.go.jp

さががけ「細胞機能の構成的な理解と制御」 平成28年度終了課題 第3回研究成果報告会

開催日:2016年11月01日(火) 13:00～18:30
2016年11月02日(水) 09:30～16:30
会場:東京都文京区 / 東京大学理学部1号館2F小柴ホール
(本郷キャンパス)
お問合せ:「細胞機能の構成的な理解と制御」領域事務所
Tel: 06-6831-7789 Mail: assistant@synbiojst.go.jp

サイエンスアゴラ2016(年次総会)

開催日:2016年11月03日(木・祝)～06日(日) 10:00～17:00
会場:東京都江東区 / お台場エリア(日本科学未来館ほか)
お問合せ:科学コミュニケーションセンター サイエンスアゴラ事務局
Tel: 03-5214-7493 Mail: agora@jst.go.jp

研究データの利活用の未来ーオープンサイエンスの実現手段ー

開催日:2016年11月04日(金) 13:30～15:00
会場:東京都江東区 / 日本科学未来館)7階 会議室2
お問合せ:知識基盤情報部
Tel: 03-5214-8471 Fax: 03-5214-8460 Mail: jalc-contact@jst.go.jp

サイエンスアゴラ2016 公開シンポジウム開催(入場無料) 「うちの子、少し違うかも・・・～発達障害に対する適切な療育・支援のための 研究開発～」

開催日:2016年11月05日(土) 12:45～14:45
会場:東京都江東区 / 日本科学未来館 未来館ホール
お問合せ:社会技術研究開発センター 企画運営室
Tel: 03-5214-0133 Fax: 03-5214-0140 Mail: otoiawase@jst.go.jp